

2012年3月期 第2四半期決算 要旨

2011年11月7日

セガサミーホールディングス株式会社

(1)2012年3月期 第2四半期実績について

■実績ハイライト

当第2四半期累計期間は、前年同期と比較して、減収、減益となりました。

しかしながら、公表計画に対しては、好調に推移しており、先日公表いたしましたとおり、上期の営業利益、経常利益、四半期純利益を上方修正しております。

■主な経営施策

2011年8月より進めておりました、自己株式の取得につきましては、設定した上限株数である500万株に達し、9月5日をもって取得を終了いたしました。

また、既に公表いたしておりました、タイヨーエレックの完全子会社化については、予定どおり、2011年8月1日付で実施しております。なお、本完全子会社化によって、負ののれんが約8億円発生し、第2四半期において、特別利益として計上しております。

■連結損益計算書(要約)

売上高:1,526億円(前年同期比29.9%減)

営業利益:151億円(前年同期比67.7%減)

経常利益:147億円(前年同期比68.0%減)

四半期純利益:39億円(前年同期比84.0%減)

負ののれん発生益など、特別利益11億円を計上した一方で、第1四半期における特許実施許諾解決金など、特別損失53億円を計上いたしました。

中間配当につきましては、計画通りの20円を予定しております。

■各種費用等の実績

計画に対しては、主に遊技機事業において、

研究開発費・コンテンツ制作費、ならびに広告宣伝費が減少いたしました。

■連結貸借対照表(要約)

前期末と比較して、流動資産は、納税等により、112億円減少した一方で、

固定資産は、保有有価証券の時価上昇等により、135億円増加いたしました。

その結果、当第2四半期末における総資産は、4,609億円となり、23億円増加いたしました。

純資産については、25億円減少し、2,829億円となりました。

自己資本比率は、60.8%となり、引き続き、健全な水準を堅持しております。

■遊技機事業

売上高: 748 億円(前年同期比 44.3%減)

営業利益: 206 億円(前年同期比 56.7%減)

パチスロでは、各タイトルの販売が計画に対して、堅調に推移いたしましたが、大型タイトルの販売は、下期を予定することから、全体での販売台数は、前年同期比 14 万 9 千台減の 5 万 2 千台となりました。

パチンコでは、『ぱちんこ CR ALLADIN NEO 小さな皇女と天魔の都』や、『デジハネ CR 北斗の拳 慈母(ユリア)』、『ぱちんこ CR 北斗の拳 金色(ファルコ)』などの販売が好調に推移いたしました。

全体での販売台数は、一部タイトルの発売を、戦略上、第 3 四半期に延期した影響により、前年同期比 1 万 7 千台減の 18 万 1 千台となりました。

第 2 四半期においても、液晶を中心としたリユースに取り組んだ結果、計画に対し原価が改善いたしました。

また、計画上では、震災の影響により、原材料調達コストが上昇するリスクを見ておりましたが、第 2 四半期までの実績でみても、前年度とほぼ同水準に留まっております。

■アミューズメント機器事業

売上高: 193 億円(前年同期比 1.5%減)

営業利益: 15 億円(前年同期比 21.1%減)

第 2 四半期の主力タイトル『セガネットワーク対戦麻雀 MJ5』の販売や、レベニューシェアタイトルの稼動が、引き続き堅調に推移いたしました。

また、アミューズメント施設市場の回復を受けて、カード等の消耗品販売も好調に推移いたしました。

なお、国内のアミューズメントマシンやプライズ等の売上高において、レベニューシェアタイトルの稼動による配分収益が占める割合は、第 2 四半期累計で約 16%となりました。

■アミューズメント施設事業

売上高: 232 億円(前年同期比 1.7%減)

営業利益: 16 億円(前年同期比 45.5%増)

減収となったものの、運営力の強化等により、増益となりました。

引き続き、『UFO キャッチャー』などのプライズカテゴリーの売上が好調に推移した結果、セガ国内既存店舗の売上高は、前年同期比 101.2%となりました。

国内施設においては、3 店舗の出店、3 店舗の閉店を行った結果、

第 2 四半期末での店舗数は、248 店舗となりました。

■コンシューマ事業

売上高: 334 億円(前年同期比 13.7%減)

営業損失: 60 億円(前年同期 13 億円の営業損失)

家庭用ゲームソフト分野は、国内での販売は堅調であった一方で、引き続き、海外での新作販売が低調に推移した結果、全体での販売本数は、前年同期比 176 万本減の 484 万本となりました。

ソーシャルゲームなどの分野では、iOS 向けの『Kingdom Conquest(キングダムコンクエスト)』が、引き続き好調に推移しており、2011 年 9 月末日時点でのダウンロード数が 160 万を突破いたしました。

玩具事業では、引き続き『アンパンマン』シリーズや『ジュエルポッド』の販売が堅調に推移いたしました。

また、アニメーション事業においては、劇場版『名探偵コナン』の配分収入などが堅調に推移いたしました。

(2) 2012 年 3 月期 通期見通しについて

■連結損益計算書(要約)

売上高: 4,400 億円(前期比 10.9%増)

営業利益: 770 億円(前期比 12.1%増)

経常利益: 755 億円(前期比 10.9%増)

当期純利益: 380 億円(前期比 8.4%減)

第 2 四半期までの好調な業績進捗、ならびに第 3 四半期以降の主力製品の受注等を勘案し、決算発表と同時に、通期における営業利益、経常利益、当期純利益予想を上方修正いたしました。

期末配当につきましては、期初計画どおりの 20 円、年間で 40 円を予定しております。

■各種費用等の見通し

主に、遊技機事業を中心に、一部の広告宣伝活動の自粛を受けて、

広告宣伝費が、期初計画に対して減少する見込みとなっております。

設備投資額は、期初計画に対して大きく増加する見込みとなっておりますが、これは主に、サミーにおいて新工場、新流通センターの建設を行うためです。なお、両施設の完成は来期中を予定していることより、今期の業績に与える影響は軽微でございます。

■遊技機事業

売上高: 2,370 億円(前期比 11.8%増)

営業利益: 760 億円(前期比 18.4%増)

現在、パチンコホールにおけるパチスロの稼動が非常に良好であり、販売市場の回復が、より鮮明になってきております。

これに伴い、パチスロ設置台数についても、今後、増加傾向に転じると分析しております。

足元では、2011年12月設置予定の主力タイトル『パチスロ北斗の拳』の販売が非常に好調に推移しており、10月末日時点での受注状況が、16万台を超過いたしました。

さらに、第4四半期には、『パチスロ北斗の拳』以外の大型タイトルの投入も予定しております。

したがいまして、通期での販売台数を31万台に修正いたしました。

パチンコについては、通期販売台数を40万台に修正いたしました。

主力タイトルとして、『ぱちんこCR蒼天の拳』や『CR龍が如く見参！』の販売を予定しております。

『ぱちんこCR蒼天の拳』の10月末日時点での受注状況は、約6万2千台となっております。

広告宣伝費を中心に販管費が期初計画に対して減少する見込みであることに加え、

震災による原材料調達コスト上昇の影響も軽微でございます。

さらには、リユース等の原価改善効果などを勘案すると、期初計画に対して、利益率が上昇する見込みとなりました。

サミーの完全子会社とした、タイヨーエレックについてですが、

今まで取り組んできた管理・営業部門の人材交流に加えて、サミーより経営陣を派遣するとともに、

開発部門への人材供給を行い、両社間の事業連携の一層の強化を図っております。

また、従前より、パチスロ筐体の共通化を実施しておりますが、パチンコ筐体の共通化を目指すなど、

今後も、さらなる原価改善や品質向上を見据え、

グループ間での、部材の共通化・共同仕入れなどの取り組みを継続してまいります。

■アミューズメント機器事業

売上高：520億円（前期比10.2%増）

営業利益：55億円（前期比24.7%減）

前期比で增收ながらも、減益となっているのは、製品の開発サイクル上、

利益率の高いCVTキットタイトルの投入数が減少することに加え、

一部タイトルの基板変更に伴い、一時的な原価の上昇が発生するためでございます。

足元では、当期の大型タイトル『StarHorse3 Season I A NEW LEGEND BEGINS.』の販売が堅調に推移しております。

また、レベニューシェアについては、引き続き、収益への安定的な貢献を見込んでおります。

■アミューズメント施設事業

売上高：440億円（前期比3.5%減）

営業損失：1億円（前期3億円の営業利益）

セガ国内既存店舗売上高は、第2四半期までの好調な進捗を受け、

通期においても、100%の達成を目指してまいります。

第3四半期においては、『StarHorse3 Season I A NEW LEGEND BEGINS.』をはじめとした、大型・主力タイトルの導入を予定しており、売上の伸張に向け、運営力の強化を図り、各タイトルの設置効果の最大化を狙ってまいります。

なお、大型タイトルの導入を行うことにより、設備投資額、減価償却費は、前期比でやや増加する見込みとなっております。

■コンシューマ事業

売上高：1,040 億円（前期比 17.1% 増）

営業利益：15 億円（前期比 21.1% 減）

家庭用ゲームソフト分野においては、下期に、海外向けの定番タイトルを複数販売する計画にしており、今期の主力タイトル『Mario & Sonic at the London 2012 Olympic Games™』を、Wii と 3DS 向けに投入いたします。まず、2011 年 11 月に販売する Wii 向けについては、現在堅調な出荷状況となっております。また、『ソニックジェネレーションズ 白の時空』、『ソニックジェネレーションズ 青の冒険』などの販売も予定しております。

しかしながら、海外での新作タイトル販売は、引き続き、厳しい環境が継続する見込みであり、通期でのゲームソフト販売本数を 2,000 万本に修正いたしました。

ソーシャルゲームなどの分野におきましては、『Kingdom Conquest(キングダムコンクエスト)』のフランチャイズ化など、実績のあるIPを中心とした、積極的な取り組みを進めてまいります。

また、『サミー777タウン』のスマートフォン対応への取り組みを進めます。

その他、『Football Manager Online』のオンラインゲームを、第4四半期より、韓国にて開始する予定にしております。

玩具事業においては、『ジュエルポッド』や『アンパンマン』シリーズなどの拡販に取り組みます。

アニメーション事業では、新作テレビシリーズの制作を行うほか、制作原価改善の取り組みを進めてまいります。

以上

※本資料における業績見通し等の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、経営者が判断したものであります。従って、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって、大きく異なる結果となりうることを予めご承知おき下さい。